

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100116		
法人名	有限会社 クレイン・ケア		
事業所名	グループホーム 晴海の丘 二番館	ユニット名	
所在地	長崎県長崎市蚊焼町215番地1		
自己評価作成日	平成29年9月11日	評価結果市町村受理日	平成29年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年10月3日	評価確定日	平成29年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『お話しっぱい、笑顔がっぱい、花がっぱい、だからしあわせがっぱい』という理念のもと、利用者様の笑顔を大切にしながら個々人の思いと真剣に向き合い、意思を尊重したケアを実践している。また、利用者様の身体的・心理(精神)的变化にも柔軟に対応しながら、利用者様の“今、出来る事”を探し、生活の場面で自ら積極的になれるような環境作りも行っている。家族様との関りも積極的に行い、利用者様に関する事のみならず様々な相談に応じ、より良い関係作りを図っている。また、資格取得に向けた努力や毎月開催中の勉強会への積極的な参加など、職員のケアに対する向上心が多く見受けられるようになっている。これに加え、新人職員に対する研修カリキュラムを含めた業務マニュアルの確立に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム 晴海の丘 二番館”のガーデンには秋桜などの季節の花が咲き誇り、芝生も心地良く、天気の良い日は日向ぼっこができる環境が整備された。同じ建物の2階に系列ホームが移転してきた事もあり、交流の機会も増えている。ご利用者同士も仲良く過ごされており、ソファで談笑されたり、ご利用者同士の助け合いも行われている。職員の自主性やアイデアを引き出し、浴室の手すりや洗面台の増設、トイレの高さ調整なども行われた。ご利用者は「最期までここで…」と希望される方ばかりで、家族の想いにも寄り添い、次長(看護師)が定期的に家族面談を行い、面談時の記録も詳細に残している。24時間体制の医療連携も密に行われ、体調が少しでも変化した時は次長からのアドバイスもあり、ご本人と職員、家族の安心になっている。誠心誠意の終末期ケアも続けられ、ご本人の最後のお言葉(想い)を聴くこともでき、介護の仕事の感動を頂く事も多いとのこと。「資格を取りたい」という職員の意欲も引き出し、施設長自らが講師となり実技指導やアドバイスを続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の中で安心して生活を支援できるよう環境を整えます』の理念の意義を理解し、実践に生かせるよう日々努力を重ねています。	「お話いっぱい、笑顔がいっぱい、花がいっぱい、だからしあわせがいっぱい」と言う理念を大切にしており、理念の真意を職員に説明している。職員がガーデン用にヒマワリの種を購入し、皆さんで水やりしている。環境改善も継続しており、今後も職員全員で自己評価を行う予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	駐車場の草刈り作業の後に近所の人々の散歩コースや通学路の清掃は続けており、昨年末に完成した玄関前のガーデンは駐車場横の東屋から眺める事も出来て、4月には花見も楽しんでおられた。	職員が清掃活動に参加し、地域の方と挨拶をされている。地域の方がホームの葡萄棚のベンチで休憩される時もあり、職員が声かけし、ホームの説明等をしている。施設長が民生委員の方々にオレンジリング等の講話をされており、職員も地域の方に事例発表等を行っている。	今後も更に子ども達との交流方法を検討していく予定である。ホームのガーデンも活用し、茶話会等で地域の方との集いの機会を作るなど、職員のアイデアを結集していきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員独自に知人の相談を受けたり、必要であれば事業所での相談・援助に繋げている。また、認知症についての相談や支援の方法などについてもアドバイスをさせていただいている。AED設置についても地域に公表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告及び参加メンバーからの質問・意見・要望を頂き、活発な意見交換を行っている。また、頂いた意見等を更なるサービスの向上につなげられるよう活かしている。	毎月の行事報告やご利用者の生活状況を報告すると共に、毎回の会議で検討事項などを継続的に報告するように努めている。ガーデンの活用方法や1番館の活用も含めてアイデアを頂いたり、防犯に関する検討も続けており、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請・手続き等で訪れたり、電話連絡の際に事業所の実情等を伝えている。しかし、じっくりと話ができている状態ではない。	地域包括主催の民生委員の集まりや南部地域の集い(年1回)に参加しており、病院主催の勉強会にも参加し、専門職との交流、情報交換をしている。必要に応じて生活福祉課の担当者や情報交換を行い、不明点を相談した時も丁寧に返答して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への積極的な参加を推進し、伝達講習を行っている。拘束はしないとの認識は共有できており、実践にも活かしている。	“身体拘束は絶対にしない”と言う方針であり、ご利用者の「尊厳の確保」をケアの実践目標としている。「認知症の理解をしていれば虐待はない」と言う事を大切に、認知症の勉強会も繰り返し行っている。BPSD行動への対応を職員個々に振り返り、先輩に相談できる環境もできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待のみならず心理的虐待やケアの放棄など、自覚のない虐待についても知識を深め、常に意識してケアを行うことで防止に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が選任されている利用者様が入居されたこともあり、今後は全職員が制度について理解・活用できるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明不足や誤解などが生じる可能性があるため、現在のところは主に施設次長・介護士長が対応にあたり、相談に応じながらホームの考え方や取組みについても詳しく、納得頂けるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設け、家族様が面会の際に意見などを書いてもらえるようにしている。家族様のなかには介護計画書にメモ書きで感想や要望をされる方もおられ、計画書に反映できるようにしている。	家族から「普段の生活状況が知りたい」との事で、日常生活やレク参加時の表情を写真に撮り、掲示しており、面会時の会話のきっかけにしている。健康面は次長などが家族に報告すると共に、全職員で家族の不安などを把握するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の入替わりにより、これまでのケアの見直しや情報交換を活発に行い共有できるよう努めている。その中で、職員一人ひとりから意見や質問が多く聞かれるようになっていく。管理者は、管理運営ミーティング内で意見・提案を細かに行っている。	行事企画や勉強会の内容について、業務中や会議の中で意見を聞くと共に、提案書等で意見を伝えてもらっている。適材適所を検討した異動も行われているが、施設長が職員個々の意思確認を行っている。年間スケジュールの中に行事等の予定を入れ、実践に繋げていく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の『資格を取りたい』という気持ち・意欲に添って支援を行っている。施設長自らが講師となり実技指導やアドバイスを行っている。また2回/年の健康診断を実施し、心身の健康を保つ対応も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には資格取得に意欲を持ってもらう為、施設内の勉強会への参加を促し、施設外研修へも勤務扱いとして参加してもらっている。講習会・研修会の情報は回覧・申し込みも施設にて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで知り合った同業者との情報交換を行い、親睦を深めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入院されている場合は病院へ訪問し、身体の状態を含め本人の思いなども聴くようにしている。家族様との連絡を密にし、家庭に訪問したり、事業所の見学も勧めている。一方的に尋ねることはせず、傾聴することに努める場面もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは話を聞くことに重点を置いている。その中から不安・要望等を整理し、確認して頂くことで信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者様・家族様が何をしたいのか・何を思っておられるか・事業所として何ができるのかを見極め、必要なサービスへと繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の今、できる事を探し、強要することなく生活の場面で自ら積極的になれるような環境づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会などを通じて家族の思いや生活歴などを聞きながら、現在の暮らしぶりを報告して、今後支援していくために何が必要かなど共に検討していける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんどの利用者様は心身の状態低下に伴い、遠方への外出が少なくなっている。その中で、施設内での行事には参加され、地域の知り合いの人の再会を楽しまれている。	ご利用者との会話から思い出話を語って頂き、馴染みの場所や人などの把握に繋げており、質問の仕方や言葉の選び方などを工夫している。家族の面会もあり、リビングのソファで団欒されたり、家族と美容室や買い物に行かれる方もおられ、おやつ等を購入されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でリビングではもちろん、居室への行き来やソファに座って会話されている場面が多く見受けられている。職員は、転倒などがないように居室の環境整備に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自由に遊びに来てもらえる等、継続的な付き合いを支援している。また、相談があれば気軽に応じるような関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	リビングのソファなどで寛いでいる時間に話をしてもらいながら何を望んでいるか、さり気なく聞いている。意向の表現が難しい利用者様には目の動きや表情などから推測できるように努めている。	日常の会話から思いを把握すると共に、他のご利用者と過ごされている時の表情や言動も大切にしている。意思疎通が難しい方にも職員から声かけし、表情の変化を把握するように努めている。今後も家族の意見を聞きながら、安心した生活に繋がっていきたく考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中や家族様の訪問時に伺ったことなど知り得た情報をカンファレンスなどで報告し全スタッフで共有している。サービス利用の経過は介護記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の表情や話しぶり・行動・バイタルチェックなどで心身の状態を把握している。入浴は特に体調面に留意して実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画・モニタリング・アセスメントと展開し、作成していく事を各スタッフが理解して更新近くなると介護記録や送りノート等で確認作業を行い、更新日迄に施設次長に確認が取れて、作成が間に合うように努力している。	管理者や各担当者が計画を作成し、他の職員と情報交換している。施設長や次長、介護士長からの助言も頂き、医療連携や生活リハビリの視点も大切に、ご本人のできる事をして頂いている。アセスメントにも「できること」「できそうなこと」の記録を残すように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	立位が困難な利用者様の体重測定は車椅子ごと測定できる体重計を活用し、月1回測定・記録している。食事・排泄などのチェック表の記入もより細かく出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携して定期的な往診や緊急時の対応もして頂いている。また、外出が困難な利用者様に対し、理美容師の訪問協力も仰いでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署職員には定期的な消防訓練・AEDの使用法・応急手当や搬送方法の講習を行って貰っている。運営推進会議の委員に地域包括支援センターの職員や民生委員の方もおられ、情報交換も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様対応の眼科受診が定期的にあるが、歯科を含め往診がほとんどで、月曜～金曜まで毎日1～2名の往診がある。急変時も臨時に対応できるようになっており、往診時には職員も立ち会っている。	月2回の往診があり、次長が情報交換を続けている。通院時は家族に同行して頂き、生活全般(食事・排泄・睡眠状況・他者との関係など)の変化を報告している。施設長が認知面の進行やケア内容のアドバイスをして下さり、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長・施設次長が看護師でもあるので利用者様の健康管理や緊急時の対応も迅速に行うことが出来ている。介護記録にも目を通され現状の把握もされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密にして情報交換やカンファレンスにも参加。双方の円滑なやり取りができるように努め、利用者様・家族様が不安にならない対応を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を書面にて定めてあるので家族様・医師・専門職の関係者・施設長・施設次長を交えて話し合いを行っている。状況の変化がある毎に家族様の意向の変化にも注意を払っている。	施設長と次長が看護師であり、協力医療機関(主治医)も含めて24時間の連携が取られている。全員の方が「最期までここで」と願われており、終末期の話し合いの記録も詳細に残されている。体調の変化は次長に報告し、緊急時も駆けつけて下さる。家族とも連携し、誠心誠意の終末期ケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、応急手当やAEDの使用法などの講習会を開いて体験・習得するように繰り返し行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	職員が防災の責任者としてリーダーシップをとり、施設全体の年間計画作成及び、実施している。また、運営推進会議へ出席し、内容の報告を行うと共に、訓練時には指導も行っている。施設自体の避難方法もマニュアル化している。更に緊急時連絡網の見直しを行い、施設に近い職員から対応してもらうようにしている。月に1回の消防訓練でも対応マニュアルとして確認を行っている。	27年4月に防災対策委員会ができ、会議(毎月)をしている。ホーム単独の訓練を毎月行い、系列施設と消防署の合同訓練も夜間想定で年1回行っている。災害時は地域の方の避難場所にもなり、3日分の食料と飲料水、布団類等を準備している。自家発電もあり、AEDの実技訓練も続けている。消防団にもご挨拶しており、今後も防災計画書を基に自然災害を想定した防災計画を深めていく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室で過ごされる利用者様には、見守りと転倒防止策としてドアが見える範囲で開けている事をしっかりと伝えて実践している。トイレには自立されている利用者様が入っていることもあるので、スタッフが入る時は必ずノックして確認するよう伝達している。	ご利用者の『その人らしい尊厳ある姿』を大切に、自己決定しやすい言葉かけや対応(支援)に努めている。意思疎通が難しい方も職員は根気よく話しかけている。ご利用者の“尊厳の確保”を常に意識し、“馴れ”に甘えず、敬意を払って接するよう職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方的に押し付けることはせず、複数の提案を用意して利用者様が決定できるようにしている。また、家族様にも本人の意向を確認してもらったり、意見を聞くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や朝食など一人ひとりのペースに合わせている。日課の体操やレクリエーションへの参加も本人の意思に任せて強要はせず、体調にも配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔後や入浴後に乳液やクリームを塗る利用者様もおられるので、リビングでは場所の提供(設定)や声掛けで手伝いを行っている。また、在庫が少なくなっている場合の家族様への連絡(依頼)も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	胡瓜を栽培していた利用者様に話を伺いながら、育てていく過程リビングからも眺めてもらった。7月には収穫し、皆さんで召し上がることができた。また、昼食の準備でスタッフと一緒に盛り付けをされる利用者様もおられる。	昼食と夕食は配食を利用し、朝食と行事食等は職員が調理している。嗜好を把握し、麺類が苦手な方などは別の物を準備している。食事の姿勢に配慮し、手作りの足置きも利用している。ご利用者も配膳やテーブル拭き、下膳等をして下さっている。	誕生日のケーキ作りを楽しまれたり、収穫した胡瓜の塩もみ等もして頂いた。今後もご利用者の役割を増やすために、レクの時に一緒に料理をしたり、以前作っておられた“梅干し”作り等の楽しみも増やす予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎回チェックを行い、記録に残している。嚥下状態の悪化から普通食が難しくなっている方には、キザミ食・ミキサー食の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、TVを熱心に観ている利用者には番組終了後やタイミングを図り、声掛けして洗面所へ誘導・促しを行っている。義歯の洗浄は毎食後、自力で出来ない利用者様も介助にて行い、口腔内はガーゼ清拭もしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録を基に、その日の体調にも考慮して声掛けや促してトイレ誘導を行っている。尿漏れなどの対応には、他の利用者様に気づかれないように速やかに実践出来るよう職員間で連携をとっている。	トイレでの排泄を大切にされており、下着を着用し、排泄が自立している方もおられる。紙パンツやオムツの必要性もカフェラテで話し合い、リハビリパンツから下着に変更できた方もおられる。夜間のオムツ交換も、安眠などに配慮したケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便へのこだわりが強い利用者様には、便器内の確認を一緒に行い、回数の認識をもってもらう意味からチェック表の提示も行っている。食事以外での水分補給も他の利用者様より多めに摂ってもらうように促している。便秘薬の処方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体力面と安全を考慮しつつ安心して入浴を楽しんでもらっている。菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤では季節感を出している。入浴拒否の利用者様にはタイミングを図り、トイレ後に誘導したり、声掛けを工夫して入浴を促している。	湯温や入浴時間などの希望に応じ、ゆっくり入浴できるようにしている。湯船で昔話を楽しめたり、できる範囲は自分で洗って頂いている。入浴を拒まれる時は原因分析すると共に、清拭、手浴、足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な体操やレクリエーションを行い、日中は一人ひとりの体調に合わせて身体を動かしてもらっている。最近では休息を兼ねて午睡をされる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をファイルにまとめ、通常より薬の効能・副作用等を確認できるようにしている。また、医師や看護師よりの指示や処置を含め個人ファイルに詳細な記録を行い、職員全員が共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターや植木鉢に花の種蒔きをして成長の楽しみを皆で分かち合っている。出来そうなことには本人のやる気を尊重して楽しみながら手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	正月には2名の外泊があり、家族様と美容院や皮膚科受診に行かれる利用者様もおられる。今年も恒例の花見に出掛け楽しんでもらっている。玄関前のガーデンでベンチに腰掛け枇杷を召し上がったり、軽く体操をした後にお茶・おやつを召し上がりつつ会話を楽しまれ、笑顔も多くみられた。	28年度はホームのガーデン造りに取り組まれ、ガーデンの桜などの花見を楽しまれた。全員での外出は減っているが、家族と一緒に散歩される方もおられ、職員と伊王島にドライブし、チューリップ見学をされたり、季節のお花見を楽しまれた。	今後も職員全員で「玄関の外に出る」企画作りを楽しまれていく予定である。リスクマネジメントも踏まえた計画を職員主体で検討していきたいと考えている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様や家族様の意向が強い場合には確認を行い、小銭の入った財布を持って頂いたこともある。外出の際には小遣いの中から払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたりする利用者様は現在おられない。遠方の家族様よりの電話を取り次ぎ、話してもらうこともある。その場合は、日時など記録に残し、職員間での情報の共有も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規利用者様の加入によりリビングで過ごす時間が以前より多くなっているため、湿温調節には特に気を配り、快適に過ごしてもらえるようにしている。	職員の提案で洗面台の数を増やし、便座の高さを調整する事ができた。リビングで過ごす方が増え、ソファで談笑されている。ベランダに朝顔やひまわり等を植え、季節を感じて頂いたり、地域の方が放牧しているヤギを眺めながら、話が盛り上がる事も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファはリクライニングになっており、最近では居室に一人で居るよりソファで臥床して寛がれる利用者様がられる。日中リビングに誰も居ないという状況は少ない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生日やクリスマス・母の日のプレゼントとして花(造花)は飾っておられる。また温度計/湿度計を居室に設置して快適な状態を保つよう心掛けている。	入居時に馴染みの物の持ち込みをお願いしている。籐椅子やテレビ、写真等と共に、計算ドリル等も持参して下さる。ご利用者と入居の片付けをしたり、職員も一緒に居室で過ごす時間を設けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のできること・わかることを日々の行動や表情・会話の中から見極め声掛けしながら混乱のない様に自立支援を行っている。		